

播州の群塔 - 兵庫県姫路市本町 68 番地における新たな播州人の居場所 -

1190149 前原 凌平

指導教員 吉田 晋

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1. はじめに

私の出身地である兵庫県姫路市は近年、姫路城の世界文化遺産登録に伴い、姫路城と姫路駅周辺は大型の建築物が建設され、都市・観光地化が進行している。

その一方で、姫路にある播州の文化・個性が街から希薄になっており、街は移住人や観光客で賑わい、都市化による影響から播州人の居場所も街の中へ埋もれている。

その現状から、このまま姫路の都市化が進んでいくと、播州人の文化や個性がなくなる可能性を感じた。

そこで、都市・観光地によって希薄化された播州人の居場所の再構築を行い、「新たな播州人の居場所」を設計する。



写真1 姫路駅周辺



写真2 姫路城周辺

2. 播州人について

兵庫県姫路市周辺で生活をしている播州人は、「荒々しい気風だが、人間味を帯びている」といった人間性や「播州弁、露店文化、播州秋祭り、路上文化」の播州ならではの魅力的な特徴があり、播州の地に誇りを持っている方が多くいる。

3. 対象敷地

対象敷地は、兵庫県姫路市本町 68 番地とする。

以下の要素から対象敷地を本町 68 番地に選定した。

3-1. 都市と観光地との関係

本町 68 番地は姫路駅と姫路城の間に位置しており、姫路城の城下であったことから歴史を構成する中堀跡の土塁が見られる。また、姫路の都市化を構成する要因となった「本町地区再開発ビルイーグレ姫路」があり、都市と観光地が混在する狭間の敷地である。



図1 兵庫県姫路市本町 68 番地を示す図

(国土地理院の電子地形図に対象敷地を追記して掲載)



都市 本町 68 番地 観光地

都市と観光地が混在する狭間

図2 都市と観光地との関係

3-2. 本町 68 番地の歴史

本町 68 番地は明治時代に軍用地の陸軍練兵場として使われていた。

昭和 20 年の戦後、本町 68 番地には戦災を受けた播州人の応急住宅が建てられ、生活をしていた。本町 68 番地周辺では戦災の影響から闇市が発生したが、闇市は急速な復興作業により 1 年で衰退し、露店商人たちが本町 68 番地に住み、闇市を始めたことにより、本町 68 番地で姫路最大の闇市「お城マート」が発生した。

また、大手前通りの開通により立ち退きを受けた住民は、空き地を不法占拠し、闇市を始めたことで「お城マート」は拡大し、本町 68 番地はバラック街になった。

その後、昭和 30 年頃から「お城マート」は衰退し、約 50 年間当時のまま取り残されていた。本町 68 番地は何度も立ち退きに揉めたが、平成 13 年に「本町地区再開発ビルレーグレ姫路」が建設され、バラック街は姿を消した。

3-3. 本町 68 番地の現状

本町 68 番地はバラック街の跡が断片的に存在し、本町商店街もまた昭和時代のまま残されており、ダーティーな街並みである。また、姫路駅と姫路城を繋ぐ、大手前通りと商店街アーケード、イベントが行われる大手前公園と面していることから、比較的に人通りが多い場所である。



写真3 昭和から残る店舗



写真4 本町商店街

4. 本町 68 番地の問題点と利点

4-1. 問題点 広がりや失った動線

かつての本町 68 番地には様々に入り込むことが可能な路地があり、路地で生活を通した近隣者同士のコミュニティができていた。しかし、現在は動線がアーケード内に留まっており、路地空間はフェンス等で遮られ、奥行きがなく、広がりやに欠けている。そのため、路地の育みが抑止されている。

4-2. 利点 特徴を持った様々な街の要素

敷地調査から本町 68 番地には「昭和から残されてきたファサード」「ビルと人間的なスケールの共存」「バラバラとした屋根並み」「住人による増改築」といった播州人と共に作り上げてきた街の要素があり、他にない播州人の居場所となる可能性を秘めている。



図3 昭和から残されたファサード

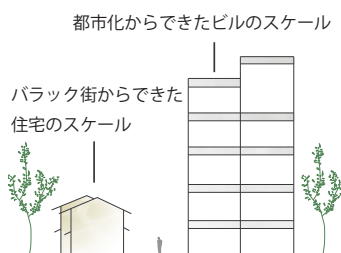


図4 ビルと人間的なスケールの共存

小さな箱に付いていた形がバラバラな屋根

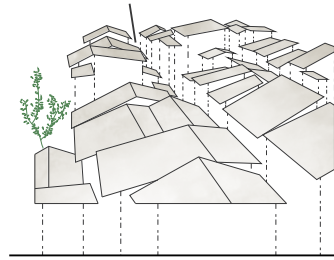


図5 「バラバラとした屋根並み」

掘っ建て小屋のように住人が増改築し壁を付けたり、植物を育てたりしている。

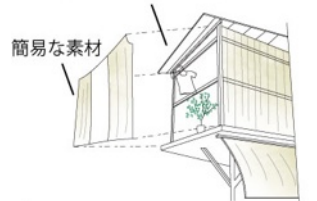


図6 「住人による増改築」

5. 提案

5-1. 播州人の住宅と露店型店舗

本設計では、播州人の生活の拠点となる「播州人が住む住宅」と本町 68 番地の新たな街の賑わいとなる「飲食・雑貨と立ち飲み屋の 2 種類ある露店型店舗」を提案する。

都市・観光地化が進行している姫路の街で播州人の居場所を確立するため、播州人の住宅をベースにし、住人による生活と店舗の営みを通じて播州人の居場所を構築する。

そこでは人と播州人による小さなコミュニティ圏ができ、播州弁の会話や都市の街で失われた個性を再生することができる。

また、近年姫路では都市化の影響から個性を持った出店や居酒屋が姿を消し、街はおとなしく、夜は静かになってきたと感じる。

そこで、本町 68 番地に播州人の個性で魅力が付いた店舗ができれば、播州人が足を運びたいとなると同時に本町 68 番地の新しい街の賑わいになるのではないかと考える。

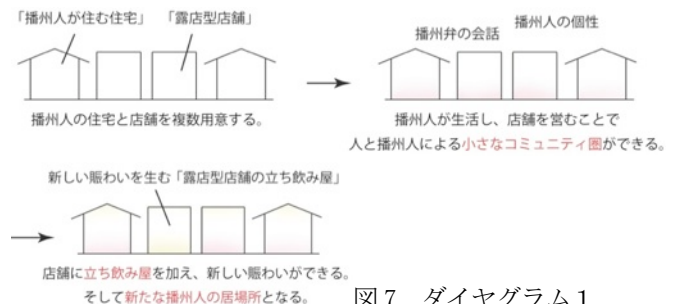


図7 ダイアグラム1

5-2 「住宅塔」と「立ち飲み塔」の提案

新たな播州人の居場所と街の象徴となることを目的とした「塔」を提案する。

新たな播州人の居場所を「本町 68 番地の要素」をポテンシャルにし、ボリュームが都市化されていく街のスケールに沿った形となるよう積層化させ、そしてヴォイドを作り広がりやと奥行きを持たせた「塔」の群とする。

積層化されたボリュームが本町68番地にある住宅のスケールに細分化した時、住宅と店舗はいくつかの「塔」のように積層化された建築となる。

「塔」は、主に「住宅塔」と「立ち飲み塔」の2つで構成する。「塔」にできるヴォイドとファサードによって、「住宅塔」からは生活の溢れが感じられ、「立ち飲み塔」からは人の賑わいと街の活気を印象付ける。

本町68番地の街区から飛び出した「塔」や「塔から伸びる屋根」は人々の目に留まり足を運ばせ、路地空間に人の流れを呼び新たな息吹を吹き込む。

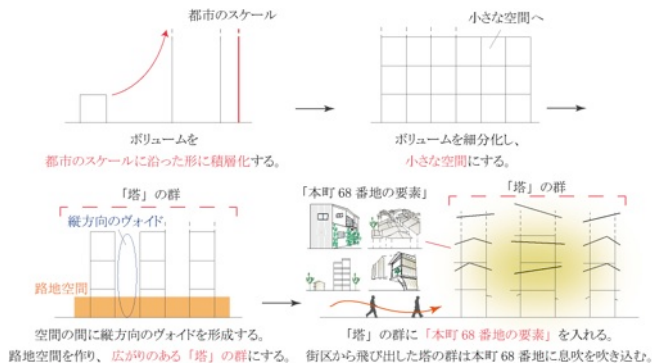


図8 ダイアグラム2

6. 設計

6-1 方針

提案に基づき、「住宅塔」と「立ち飲み塔」の設計を行う。周辺からアクセスしやすく魅力的な路地空間、「塔」と「塔」の間に観光客と住人の関係性に調和の取れる「バッファー空間」に建築的仕掛けを導入する。

そして、播州人が生き生きと生活し、人と播州人による賑わいを持った新たな播州人の居場所にする。

6-2 1階平面図兼配置図

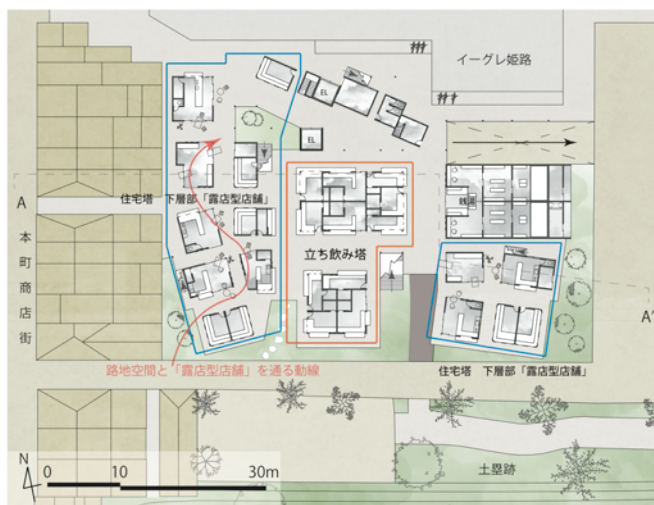


図9 1階平面図兼配置図

6-2 動線計画

細分化された空間からできるヴォイドに路地空間として機能を取り入れる。路地に対して開口部を多く開いた「露店型店舗」は路地から店舗、店舗から路地へとフレキシブルな動線を可能にする。また、少し角度を変えることで路地と立面に変化を加える。

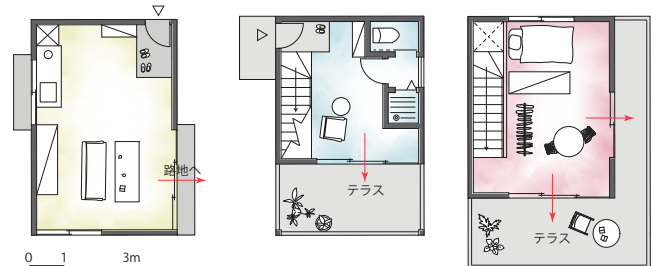
狭い路地と広い路地を用意し、動線の混雑を避ける。

6-3 「塔」と「バッファー空間」の設計

「住宅塔」について

播州人が住む「住宅塔」は下層部に露店型店舗、上層部に住宅が来るよう積層化する。

住宅はリビング、水回り、寝室の3つの小さくシンプルな空間で構成されている。それぞれの空間から外部空間に出られる開口部を多く取り付け、生活を路地やテラスといった外部に出出する。そうすることで、小さな屋根の下にできる1つの空間が高密度な住空間となるようにした。



○リビング空間 ○水回り空間 ○寝室空間

図10 「住宅塔」の住宅平面図

「立ち飲み塔」について

動線計画でできた広い路地に対して、動線を取り巻き螺旋状に上層へ伸びる「塔」として。立ち飲み屋が「塔」の核としてあり、核の外部を立ち飲み屋で賑わう構成である。4階には憩いの場や宴会会場となる和室空間を取り入れた。最上階の6階は姫路城が見える位置にあり、播州秋祭りの時には多くの屋台が周辺の大通りを練り歩く風景を眺望できる展望デッキを持った立ち飲み屋を取り入れた。

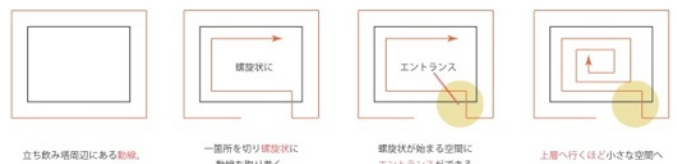


図11 「立ち飲み塔」ダイアグラム

「バッファー空間」について

「住宅塔」と「立ち飲み塔」の間には「住人の生活共有空間」と「露店型店舗」で構成されたバッファー空間を作る。「住宅塔」と「立ち飲み塔」でレベル差を付けアクセスを制限し、橋を掛けスパンを作ることで「塔」に調和を持たせる。生活の共有空間には「キッチン」と「ランドリー」

があり、「住宅塔」における「離れ」のように配置することで住人の動線が増え、播州人のコミュニケーションを拡大させる。

7. 模型写真

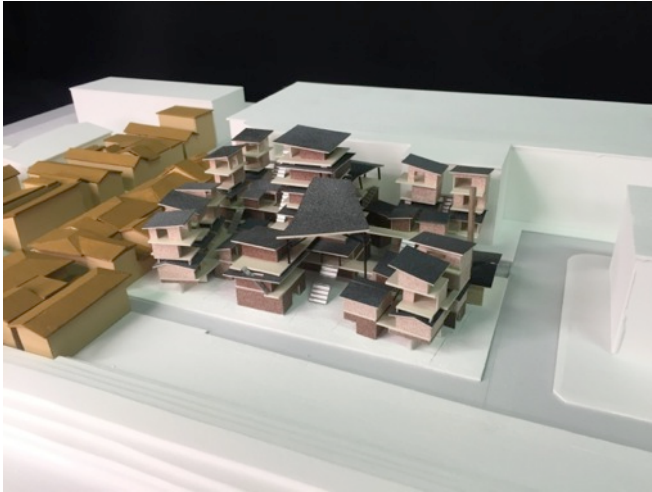


写真5 模型写真1



写真6 模型写真2

8. まとめ

新たな播州人の居場所を住宅と店舗によって再構築し、播州人による小さなコミュニティ圏を作ることが設計により達成できた。また、新たな播州人の居場所を「住宅塔」

「立ち飲み塔」にすることで、本町68番地の街区から飛び出し、人々の目に留まり足を運ばせ、路地空間に人の流れを作り、新たな息吹を吹き込むことができた。

9. 参考文献

- 1) 「播州について」 <http://tanukichat.saloon.jp/harima.htm>
- 2) 「本町68番地の歴史」 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjhg1948/16/3/16_3_225/_pdf
<http://shinkokunippon.blog122.fc2.com/blog-entry-870.html>
- 3) 「基盤地図情報ダウンロードサービス. 国土地理院」 <https://fgd.gsi.go.jp/download/documents.html>,

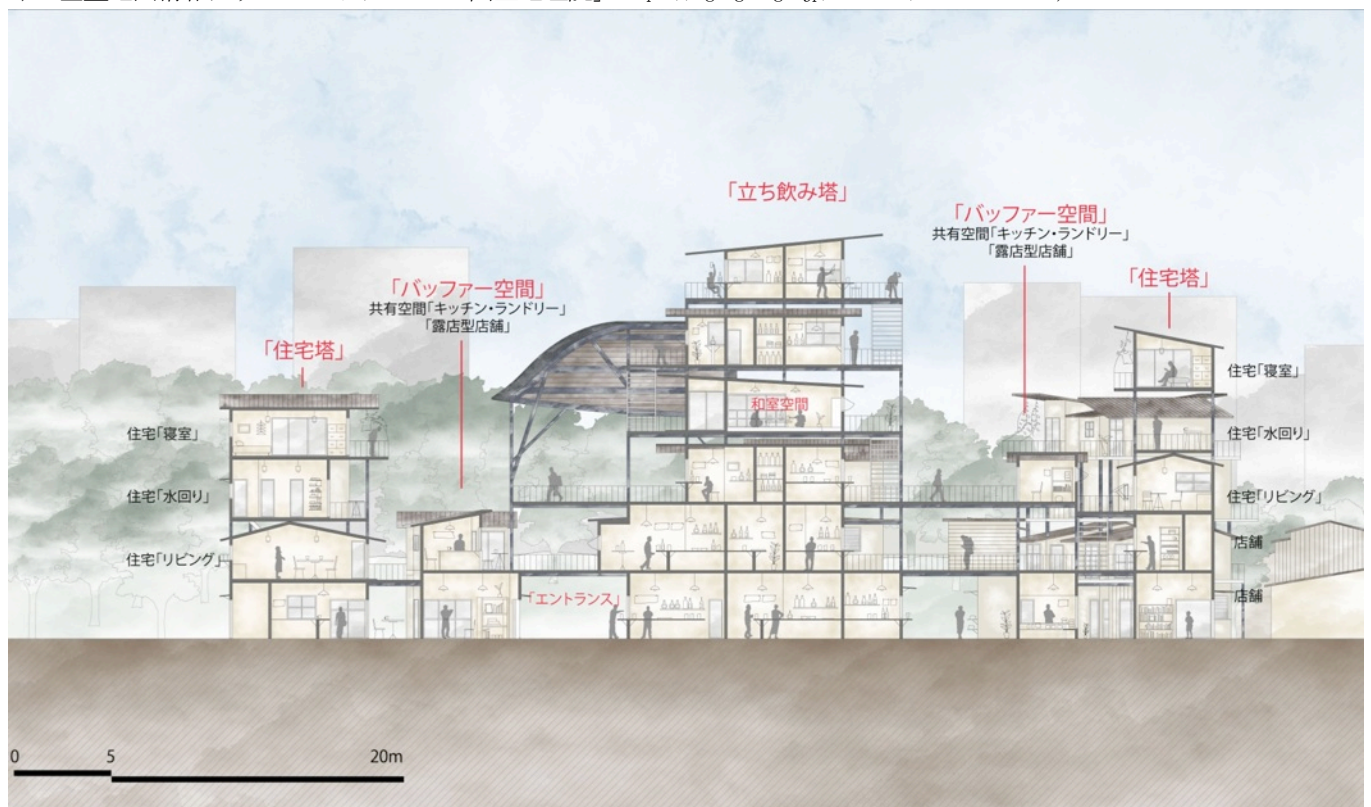


図12 断面図